

学 校 名	山形市立蔵王第一小学校	校 長	齋藤 正弘
	山形市蔵王成沢西四丁目3番17号 TEL688-2210 FAX688-9041	研究主任	土屋 久美
研 究 主 題	<p style="text-align: center;">「主体的に学ぶ子供の育成」 (4年次) —対話的な学びを通して—</p>		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>これからの学校には、一人一人の子供が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。</p> <p>児童が自己実現を図り生涯にわたって学び続けていくには、確かな学力の育成が不可欠である。知識・技能を習得するだけでなく、その知識・技能を活用して生活に役立つ思考力・判断力・表現力などを身に付けることが重要である。新学習指導要領では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供達に育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等で、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で再整理された。その3つを養うために、「何をどれだけ学ぶか」という知識の質や量の吟味に加え、「どのように学ぶか」という学びの質を高める指導方法を吟味することが重要である。</p> <p>本校の学校教育目標は「豊かな心を育み 自ら学び たくましく生きる子供の育成」である。その具現化のため、探究型学習に重きを置き、自ら学ぶ課題の設定や互いに学び合おうとする学級づくりに力を入れながら、自ら学ぶ子供を育成していくことが大切となる。</p> <p>そこで、子供達が主体的に課題解決に取り組む姿を第一に考え、学校教育目標の具現化、探究型学習を推進するために、平成30年度から「主体的に学ぶ子供の育成」という主題で研究を進めてきた。主体的に学ぶ子供の姿について話し合いを重ねて「めざす主体的に学ぶ子供の姿」を設定し、それを実現するための単元づくりをし、次に示す3つに重点を置いて実践を重ねてきた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①子供にとって、意欲的に取り組むことができたり必要感があったりする「課題」 ②「学び合い」を大切にしたい指導や支援の在り方 ③思考の深まりを実感できる「まとめ」、次時への課題とかかわりを意識した「振り返り」 <p>その中で、既習事項や経験をもとにして課題に向き合う姿、分かりたくて友だちに尋ねたり教え合ったりする姿などが見られるようになってきた。活発に発言し話し合うだけでなく、友だちの考えを聴いたり、既習事項を振り返ったりしながら課題解決に向けて考えている姿も「主体的に学ぶ姿」と捉え、平成31年度からは「対話的な学びを通して」というサブテーマを設けて研究を進めてきた。課題や教材文、経験、発言、内言等も対話の対象と捉え、発言は少なくともじっくりと考え、調べ、課題解決に向かおうとしている子供の中にも主体的な学びの姿を見出してきた。今年度も「課題」「学び合い」「まとめ・振り返り」の3つの重点を核にしながら、主体的に学ぶ子供の姿を追求していく。</p>		

研究の目標

発達段階に応じて、次のような「めざす主体的に学ぶ子供の姿」をめざしていく。

- <低学年>
 - ・ 課題に進んで取り組み、学ぶことの楽しさを感じている。
 - ・ 友達の考えを聴き、自分の考えを表現している。
- <中学年>
 - ・ 課題解決に向けて意欲的に取り組み、学ぶことよきを感じている。
 - ・ 友達の考えと比べて聴き、自分の考えを表現している。
- <高学年>
 - ・ 課題に粘り強く取り組み、解決したり次の課題を見出したりして、学びの高まりを感じている。
 - ・ 自分と友達の考えをつなげ、更に自分の考えを深めて表現している。

研究の内容

各教科において、学びの高まりに有効な「課題」「学び合い」「まとめ・振り返り」に重点を置く。課題解決の過程を意識した振り返りができるようにし、何と対話しながら考えを深めることができたのかを子供自身が意識できるようにしていく。

<3つの重点>

- ① 子供にとって、意欲的に取り組むことができたり、必要感があつたりする「課題」
 - ・ 主体的に取り組める課題、子供が自ら発見・設定した課題（わくわくどきどきする、やりがいのある）
 - ・ 課題への見通しの持たせ方
- ② 「学び合い」を大切にしたい指導や支援の在り方
 - ・ 「授業づくり」において、意図がはっきりした交流
 - ・ 聴くことを大切にしたい関わり方（分かるうとして聴く、相違を考えるなど）
 - ・ 考えを広めたり深めたりするための子供の声のつなぎ方や支援の在り方
 - ・ 「聴く・話す」力をつけるための指導
- ③ 思考の深まりを実感できる「まとめ」、次時への課題と関わりを意識した「振り返り」
 - ・ 学習感想や振り返りの内容の吟味
 - ・ 関わりを通して学んだことを実感できる（個に返る）手立て
 - ・ 授業内容に合わせたまとめ方

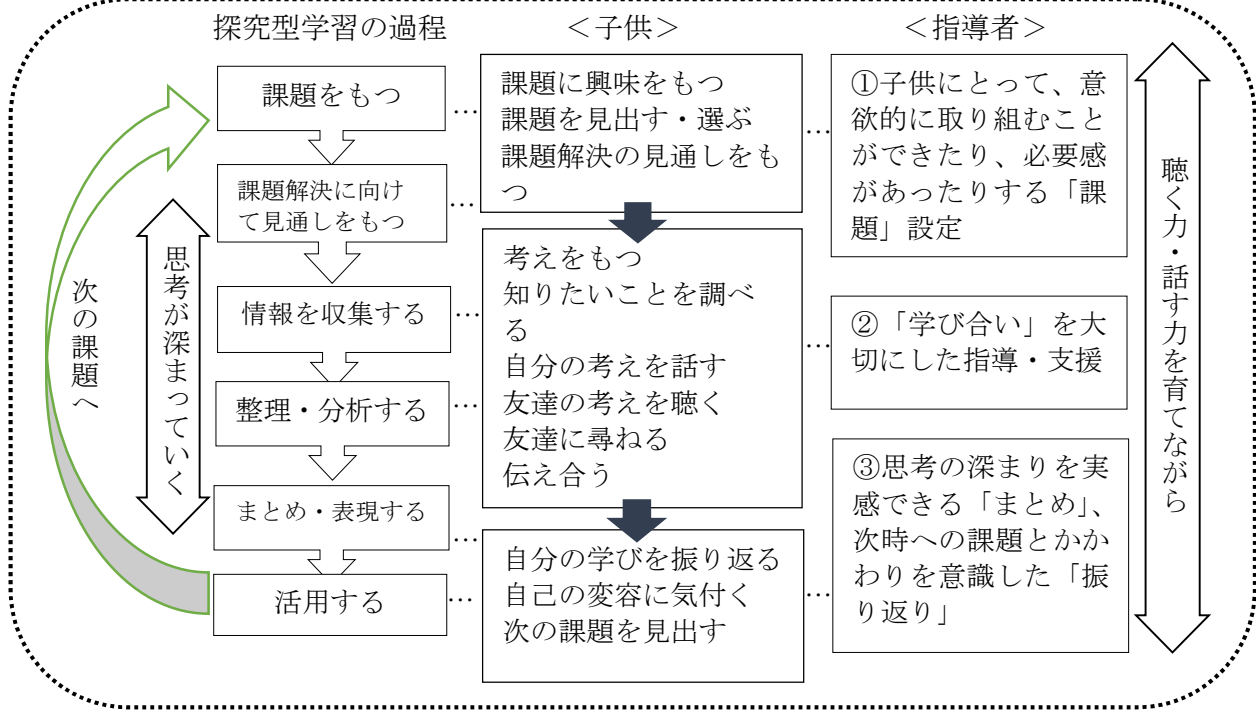
<対話の主な対象と目的>

課題との対話
 問いとの対話
 既習事項との対話
 ※自分事にするために

友だち・教師との対話
 情報（本・教材）との対話
 自分の経験との対話
 ※独りよがりにならないために

まとめで学習内容との対話
 振り返りで自分との対話
 ※学びを確かなものにするために

【学びのイメージ】



研究の方法

- ①授業研究について
 - 研究授業は全員が行い、授業改善を進める。10月6日の公開研究発表会で行う研究授業を「大研」とする。他の授業を「小研」とする。小研は12月末までに研究授業を行う。
 - 「大研」は教科部を基本とし、事前研究会・事後研究会を行う。可能ならば、同じ学年も参加するようにする。事後研究会では、「主体的に学ぶ子供の姿」「主体的な学びにつながった手立て」について振り返り、グループごとに大判用紙にまとめて代表者が全体で発表し、視点に沿って話し合う。事後研究会で話し合われたことや「助言者からご指導いただいたこと(特に話題になったこと)」などについて校内研究全体会で実践を共有できるようにする。
 - 「小研」は、学年部を基本とし、事前研究会・事後研究会を行う。可能ならば同じ教科の人も参加するようにする。事後研究会では、「主体的に学ぶ子供の姿」「主体的な学びにつながった手立て」について振り返り、記録を配って共有を図る。
 - 研究紀要の原稿は、1月末までに授業者が作成する。
- ②教科について
 - 教科の特質を考慮し「主体的な学び」のある授業を創っていく。それぞれの教科を通して主体的に学ぶ子供の姿に迫っていくようにする。
 - 研究授業をする教科ごとに教科部を組織し、研究を深めていく。
- ③講師について
 - 本校担当の市教委、澤村啓指導主事を中心に指導助言者をお願いする。
 - 山形大学の佐藤博晴先生、野口徹先生に研究協力をお願いする。
- ④研究の日常化について
 - 学習指導と関連させ、各教科における今年度の指導の重点を明確にし、全職員共通理解のもと指導にあたり、授業や教育課程の中で、関わりを通して主体的に活動する子供の姿を引き出せるようにする。
 - 日頃の授業の中で子供が主体的に取り組んだ課題 (good practice) を記録して共有する。
 - 授業研以外でも、学年・個人で積極的に授業を開いていく。その場合、当該学年の研究推進委員が全職員に知らせるようにする。(略案も可)
 - 教科主任を中心に、教科ごとの情報提供を積極的に行っていく。

研究の計画

<主な日程>

- 4月
 - ・研究全体会 …研究計画(研究の概要、授業者決定など)
 - ・研究推進委員会…指導案の形式について
- 5月～
 - ・単元検討会 …10月6日の授業研究会でどの単元をするか話題にする。
 - ・事前授業研究会…子供と単元について助言者と教科部で検討する。
- 7月～
 - ・公開授業づくり…授業について助言者と教科部で検討する。
 - ・研究全体会…1学期の研究の成果と課題(good practice と3つの重点)
 - ・指導案検討会…助言者と教科部で検討する。
- 8月
 - ・公開研の指導案完成
 - ・リーフレット原稿完成
- 9月
 - ・指導案提出
- 10月
 - ・山形市教育委員会委嘱授業研究会(10月6日)
- 12月
 - ・研究推進委員会・研究全体会…今年度の研究の成果と課題
- 1月
 - ・研究紀要原稿執筆
- 2月
 - ・研究推進委員会・研究全体会…次年度の方向性
- 3月
 - ・研究紀要「こまくさ48号」発刊

<研究の組織>

- ★研究推進委員会：研究についての指針を決定するとともに、内容を討議し、推進を図る。
校長・教頭・教務(朝倉)・副教務(土屋)・特別支援(野口)
1年(藤谷)・2年(舘石)・3年(和田)・4年(佐藤智)・5年(小泉)・6年(石川)
- ★企画会：情報収集、研究方法の提案、公開研究会に向けての諸準備などを行う。
研究主任と副研究主任が、クラブ活動と同じ時間帯に行う。

★校内研教科部会：授業創り（事前研究会、事後研究会）、理論の構築、授業実践を行う。

外国語	○和田 岩倉	○石川 黒沼	○野口 佐藤敏	金沢	中村
生活科・総合	○藤谷	○小泉	土屋	武田	江口
国語	○館石 朝倉	○佐藤智 今野	○加藤	亀井	工藤

○は大研の授業者

★校内研学年部部会：授業創り（事前研究会、事後研究会）、理論の構築、授業実践を行う。

低学年部	武田（算数）	藤谷	館石	亀井（算数）
中学年部	金沢（外国語活動）	和田	佐藤智	工藤（国語）
高学年部	小泉 朝倉（理科）	加藤 土屋（理科）	江口（算数）	中村（算数） 石川
支援部	野口	岩倉（自立）	今野	黒沼 佐藤敏

（ ）は小研の教科

<組織図>

